

新潟県内で確認された淡水カメ類 (1)

作成: 生物多様性保全ネットワーク新潟

ニホンイシガメ (イシガメ科)

【環境省準絶滅危惧 新潟県準絶滅危惧 ワシントン条約付属書Ⅱ掲載種】



【特徴】メスは甲長20cmほど、オスは15cmほどに成長。背面は茶色～黄色味を帯びた茶色で、中央に1本の隆起があり、甲羅の後端はギザギザしている。腹面は黒く、頭部はクサガメに比べて小さめである。

【分布】日本固有種で、本州・四国・九州に分布。県内では、平野部よりも里山を流れる川で見つかる事が数回あるが数はごく少なく、生息実態は不明。

【備考】生息環境の悪化、販売目的の乱獲、外来捕食動物の影響などにより、全国的に生息数が激減している。越後側には天然分布がないとの記載もあるが、大正14年(1925)発行の『新潟縣天産誌』には、淡水性カメ類は本種とスッポンのみが記載されている。



頭は小さめで、首にはクサガメのような黄色い模様はない



背面は褐色～黄褐色、腹面は黒い



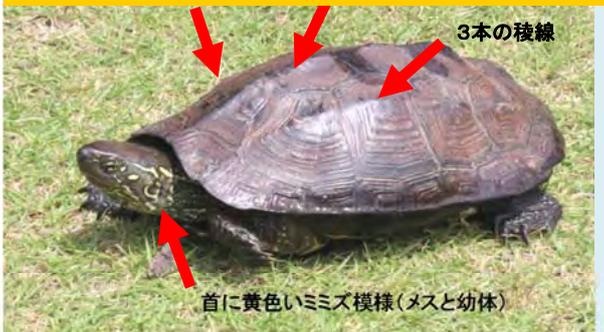
オスは小型で尾が太い ギザギザ



幼体の尾は甲とほぼ同長

クサガメ (イシガメ科)

古い時代の移入種: 朝鮮半島・中国大陸原産



3本の稜線

首に黄色いミミズ模様(メスと幼体)

【特徴】メスは大型で甲長25cmほどに成長する。背甲には3本の稜線、首には黄色いミミズ模様がある。成熟したオスは全身が黒化し、イシガメと誤認されることがある。さわると臭いを発するため、「くさがめ」の名がついた。

【分布】本州・四国・九州に分布。県内では、平野部の池沼や下流部の河川、農業用水路などに普通に生息する。

【備考】在来と考えられていたが、最近のDNA検査で朝鮮半島や中国大陸からの移入種であることが明らかになった。『新潟縣天産誌』に記載がないことから、県内には昭和期になってから持ち込まれたものと考えられる。現在ペットとして流通するのはほとんどが中国産。在来のニホンイシガメへの遺伝子汚染(交雑)が問題となっているが、現時点では法規制がない。



成熟したオス: 全身黒化して首の線も見えない。腹甲がくぼみ尾が太い。



メスの腹甲: 黄色い仕切り



幼体: 背甲の3本の稜線が明瞭

ニホンスッポン (スッポン科)

【環境省情報不足】



泳ぎはたくみ

【特徴】甲長30cm以上に成長する。背甲は柔らかい皮膚に被われ、手足の水かきが発達し、泳ぎは巧みである。首が長く伸び、とがった鼻をシュノーケルのように水面に出して呼吸する。皮膚やのどの粘膜でも酸素を取り込むことができる。歯はないが、口は鳥のくちばしのように、かみ切る力が強い。

【分布】国内では本州・四国・九州に生息し、中国～朝鮮半島に広く分布する。新潟県内にも生息するが、食材として持ちこまれた可能性が高い。

【備考】手を近づけると、首を伸ばして素早く噛みつこうとする。水中でも陸上でも行動は敏捷である。



腹面もなめらか(頭は左側)



大型個体はかなり危険



上)スッポンの甲羅

右)背面 点線は甲羅の後端位置

後ろは柔らかく、フラップのように上下に動く



新潟県内で確認された淡水カメ類 (2)

作成: 生物多様性保全ネットワーク新潟

ミシシippアカミガメ (ヌマガメ科) 【緊急対策外来種】 【世界の侵略的外来種ワースト100】 北アメリカ南東部原産

目の後方の赤い斑紋が「アカミガメ」の由来



大型のメス

【特徴】メスは大型で甲長28cmほどに達する。オスは小型で尾が太く、爪が長く伸び、まれに黒化するものがある。背面に隆起線はなく、目の後ろの赤褐色の斑紋が特徴的。幼体は緑色で「ミドリガメ」と呼ばれるが、成長すると黒みを帯びる。

【備考】ペットとして大量に輸入されたものが放されて増殖し、日本国内の淡水ガメの中で最も多数を占めるようになった。新潟県内でも、都市部を中心に急増中。成長すると攻撃的になり、水生植物を食害したり、様々な水生小動物を捕食し、在来のカメ類と競合する。環境省は「アカミガメ対策推進プロジェクト」を始動、野外からの排除に向けて段階的な対策を進めている。



オスは尾が太く、爪が長く伸びる



黒化したオス「メラノイド」



幼体「ミドリガメ」

その他のヌマガメ科のカメ類

アメリカ合衆国東部原産



キバラガメ (上はアカミガメ)
眼と鼓膜の間からのどにかけて黄色い斑紋がある。(画像提供: マリンピア日本海 田村広野氏)



リバークーター (別名 コンキンヌヌマガメ)
頭部は小さめ、首にかけて多数の縦縞がある。腹甲は黄色。

【特徴】どちらも北アメリカ東部原産で、幼ガメはアカミガメに似ている。キバラガメは、アカミガメと同種の別亜種であるが、アカミガメほど広がっていない。

リバークーター(コンキンヌヌマガメ)はアカミガメより大型で、メスは甲長40cmに達する。

【備考】ペットとして持ちこまれているが、日本国内にはまだ定着していない。キバラガメはアカミガメ同様「緊急対策外来種」指定、リバークーターは「定着予防外来種」指定されている。

カミツキガメ (カミツキガメ科)

【特定外来生物】 【緊急対策外来種】 カナダ～南アメリカ原産



画像提供:
長岡市寺泊水族博物館
新潟県三条保健所

【特徴】甲長50cm、体重30kgに達する。甲羅背面はごつごつして3本の稜線がある。尾の上にも大きな鱗がある。腹側の甲羅は小さく、手足を中に引っ込めることができない。口は鳥のくちばしのように、かみ切る力が強い。

【備考】一時ペットとして販売され、捨てられたものが国内各地で見つかり、県内でも時々捕獲されている。千葉県印旛沼などでは、繁殖が確認されている。攻撃的で俊敏、咬まれると大けがを負う危険がある。「特定外来生物」に指定され、飼育、販売、移動などが禁止されている。「特定外来生物」、「日本の侵略的外来種ワースト100」指定。



ワニガメ (カミツキガメ科)

【特定動物】 【その他の定着予防外来種】 北アメリカ南西部原産

尖った甲板が特徴的



ガメラのモデルになった
画像提供: 長岡市寺泊水族博物館

【特徴】甲長80cm、体重100kgに達する。背面には3本の稜線があり、カミツキガメよりさらにごつごつして甲板が尖って見える。水中では、ミミズのような形の舌を動かして小魚を引きつけて捕食する。力は強いが、カミツキガメほど俊敏でなく、危険性は低いという。

【備考】人体への被害が予想されるため、猛獣並みの「特定動物」に指定されている。飼育するには県知事、政令指定都市市長の許可が必要。捨てられたものが野外で見つかることがある。



魚を引きつける
ミミズ状の舌

